

付着生物ラーバ情報

秋から冬生まれのムラサキイガイ ラーバはほとんど付着しません

1 ラーバ等の出現状況

直近のラーバ等の出現数は表1のとおりです。

(1) ユウレイボヤ、キヌマトイガイ、オベリア類（クラゲの仲間、通称クサ）

ラーバやクラゲは見られていません。

(2) ムラサキイガイ

ラーバは久栗坂沖で11.7個体/m³、小湊沖で1.3個体/m³、野辺地沖で6.3個体/m³、川内沖で8.6個体/m³見られました。

(3) アミクサ（海藻、通称クサ）

小枝は久栗坂沖で0.6個/m³、野辺地沖で0.8個/m³、川内沖で2.3個体/m³見られました。

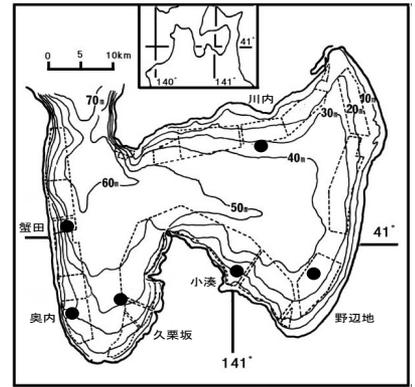


図1 ラーバ調査地点

表1 ラーバ等の出現状況

調査地点	調査月日	ユウレイボヤ	サラボヤ	マホヤ		キヌマトイガイ	ムラサキイガイ	オベリア類 クラゲ	アミクサ 小枝
				ラーバ	卵				
久栗坂沖	R1.11.13	0.0	0.6	0.6	0.6	0.0	11.7	0.0	0.6
小湊沖	R1.11.7	0.0	1.3	0.0	0.0	0.0	1.3	0.0	0.0
野辺地沖	R1.11.8	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0	6.3	0.0	0.8
川内沖	R1.11.13	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.6	0.0	2.3

※久栗坂・川内沖は実験漁場内

2 今後の見込み

ユウレイボヤは水温が20℃以下に低下すると産卵しますが、現在、陸奥湾内の中層水温が14~16℃台まで低下したにもかかわらず、ラーバが見られないことから、**分散済みの籠への今秋における付着は少ない**と考えられます。

ムラサキイガイラーバは4~7月まで出現していたので、耳吊りや養殖籠には多く見られていますが、平成30年10月~令和元年10月までのラーバ調査、付着量調査から、**秋から冬生れのラーバの付着はほとんどない**ことが分かりました。

アミクサ小枝の本格的な出現は12月以降、オベリア類とキヌマトイガイの付着は年明けになるものと思われま。

稚貝のパールネット内に今秋生まれの小さなウミセミが多数見られます。ウミセミは8℃以上の水温で付着生物を活発に食べるので、冬季に水温が高ければ来春の付着生物量は少ない可能性があります。

3 ユウレイボヤの付着予測

西湾（久栗坂）と東湾（小湊、野辺地、川内）における10月~翌年3月までのユウレイボヤ累積ラーバ数、12月~翌年3月までの青森ブイ（西湾）または東湾ブイ（東湾）の水深15m層の平均水温と出荷時期のパールネット1連の付着量の関係を調べたところ、**平均水温が8℃以上もしくはラーバ累積出現数が5個体/m³以下であれば付着量が少ない**ことが分かりました（図4）。ちなみに青森ブイの平均水温の平年値は8.1℃、東湾ブイの平年値は5.6℃です。

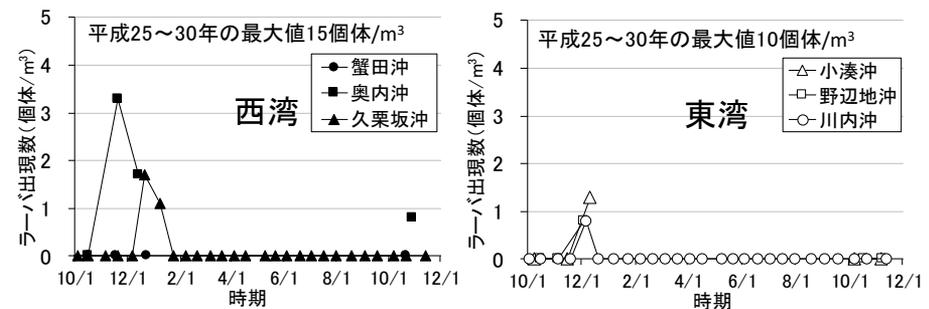


図2 ユウレイボヤ出現数の推移（平成30年10月~令和元年11月）

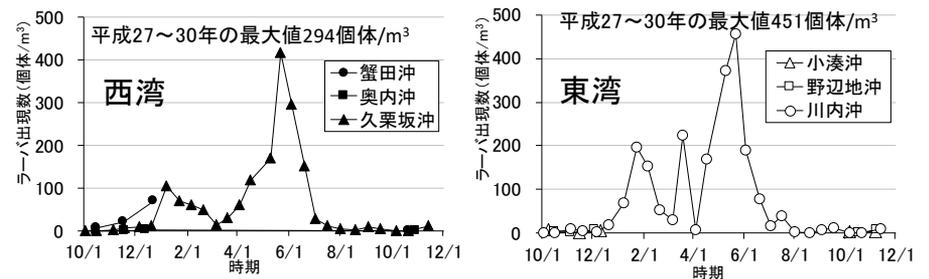


図3 ムラサキイガイ出現数の推移（平成30年10月~令和元年11月）

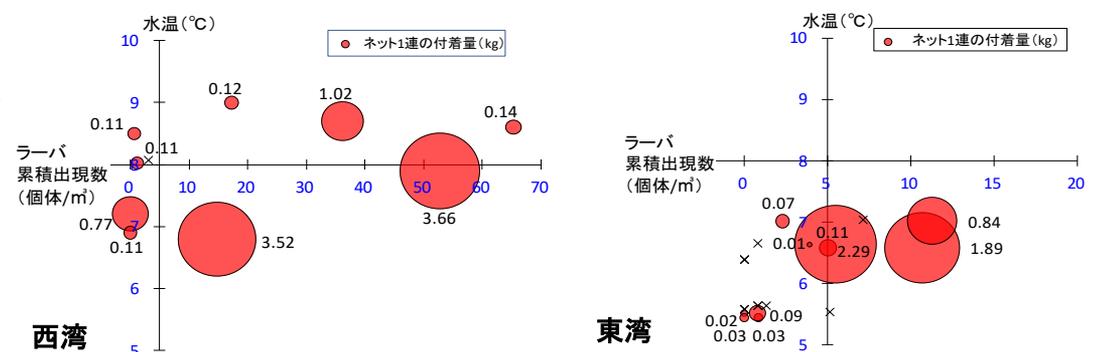


図4 平成16~30年のユウレイボヤのラーバ累積出現数、青森ブイまたは東湾ブイ水深15mの平均水温とパールネット1連の付着量の関係（○印の中心はプロット位置、面積は付着量、×は付着量が0kg）

